

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北陸財務局長

【提出日】 2021年2月10日

【四半期会計期間】 第50期第3四半期(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

【会社名】 エヌアイシ・オートテック株式会社

【英訳名】 N I C A u t o t e c , I n c .

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 西川 浩 司

【本店の所在の場所】 富山県富山市流杉255番地

【電話番号】 076-425-0738

【事務連絡者氏名】 執行役員管理部長 藤井 透

【最寄りの連絡場所】 富山県富山市流杉255番地

【電話番号】 076-425-0738

【事務連絡者氏名】 執行役員管理部長 藤井 透

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第49期 第3四半期連結 累計期間	第50期 第3四半期連結 累計期間	第49期
会計期間		自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高	(千円)	5,056,657	4,951,479	6,614,552
経常利益	(千円)	117,351	173,256	176,938
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	68,223	108,485	100,433
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	82,718	158,171	44,884
純資産額	(千円)	4,681,316	4,583,691	4,643,482
総資産額	(千円)	7,804,943	7,818,063	7,431,294
1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	12.52	19.91	18.43
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	60.0	58.6	62.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	612,001	817,631	390,388
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	462,178	112,911	512,404
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	249,140	111,114	175,429
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,016,734	1,266,091	671,945

回次		第49期 第3四半期連結 会計期間	第50期 第3四半期連結 会計期間
会計期間		自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	自 2020年10月1日 至 2020年12月31日
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失()	(円)	4.91	7.95

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループにおいて営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

・経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の第二波の影響が残るものの、政府施策等の効果により個人消費も回復基調となってきましたが、COVID-19感染拡大第二波の状況を上回る第三波の到来によって、景気の先行きは再度不透明感が高まる状況となりました。また、企業の生産活動や設備投資は、総じて停滞状態が継続しており、不透明なまま推移しております。

このような状況のもと、当社主力製品である「アルファフレームシステム」は、構造部材としての販売が堅調に推移したものの、停滞する設備投資の影響によって、FA装置の受注環境は極めて厳しく、低調に推移いたしました。しかしながら、当社各部門は来期以降の案件に対して積極的な提案営業を展開し、受注の確保に注力いたしました。

また、第2四半期より引き続き、当第3四半期においてもWith/Post COVID-19のニューノーマル時代への変革に対応できるよう生産設備の見直しを推進し、効率化が図れる設備を積極的に導入するとともに、既存設備に対してもデジタル技術を活用できるよう改良等を加えるなど、様々な施策を講じてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,951百万円（前年同四半期比97.9%）、営業利益は、172百万円（前年同四半期比145.7%）、経常利益は173百万円（前年同四半期比147.6%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、108百万円（前年同四半期比159.0%）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

[アルファフレーム部門]

アルファフレーム部門におきましては、一般顧客向けの販売では、2020年5月以降、COVID-19の影響で従来の営業活動に支障が出ているものの、オンラインによる営業活動においてその効果をより発揮できる当社独自の「カクチャTM」及び「マーキングシステムTM」を活用した作図案件及び新規引合い案件は順調であり、前期に対して微減したところで維持しております。また、大口顧客向け継続案件は、第2四半期連結累計期間より受注は順調に推移し、当第3四半期連結累計期間の受注が増加いたしました。

この結果、当部門の売上高は3,557百万円（前年同四半期比112.3%）となりました。

[装置部門]

装置部門におきましては、前期末に複数大型案件の納入が完了したことによる装置製作工程の谷間から、当第3四半期連結累計期間には回復を見込んでおりました。しかしながら、COVID-19の影響が長期拡大化してきていることにより、一時的な設備案件の減少とともに、予定していた設備案件の一部はキャンセルではないものの来期への計画延期となるものも出てまいりました。

この結果、当部門の売上高は618百万円（前年同四半期比56.2%）となりました。

[商事部門]

商事部門におきましては、主要顧客各社ともCOVID-19の影響を受け、生産調整が計られたことにより消耗品や治工具類の売上が大きく減少いたしました。しかしながら機械設備関係については、前年同四半期よりも売上高は大幅に増加いたしました。

この結果、当部門の売上高は775百万円（前年同四半期比98.5%）となりました。

・財政状態

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前期末と比べ386百万円増加し、7,818百万円となりました。これは主に、現金及び預金が594百万円、電子記録債権が242百万円、それぞれ増加した一方で、受取手形及び売掛金が197百万円、仕掛品が203百万円、それぞれ減少したことなどによります。

負債は前期末と比べ446百万円増加し、3,234百万円となりました。これは主に、電子記録債務が128百万円、長期借入金134百万円、それぞれ増加した一方で、支払手形及び買掛金が50百万円減少したことなどによります。

純資産は前期末と比べ59百万円減少し、4,583百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が45百万円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上108百万円及び配当金の支払い1217百万円があったことにより、利益剰余金が109百万円減少したことなどによります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前期末と比べ594百万円増加し、1,266百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期間の612百万円のキャッシュ・インに対し、817百万円のキャッシュ・インとなりました。これは税金等調整前四半期純利益の計上による資金の増加173百万円やたな卸資産の減少による資金の増加168百万円及び未払消費税等の増加による資金の増加207百万円があったことなどが主な要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期間の462百万円のキャッシュ・アウトに対し、112百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは有形固定資産の取得による支出が102百万円あったことなどが主な要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期間の249百万円のキャッシュ・インに対し、111百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは長期借入れによる収入200百万円があった一方で、長期借入金の返済による支出65百万円や配当金の支払いによる支出217百万円があったことなどが主な要因であります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発活動に係る費用の総額は61百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	3,567,961	112.2
装置部門	618,700	56.2
合計	4,186,661	97.8

(注) 上記の金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

商品仕入実績

当第3四半期連結累計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	品目	仕入高(千円)	前年同四半期比(%)
商事部門	工業用砥石	61,353	64.7
	機械設備	414,010	143.2
	工具・ツール・油脂類	182,008	63.8
合計		657,372	98.2

(注) 上記の金額は仕入価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	3,502,921	117.2	1,126,240	123.0
装置部門	620,371	55.8	308,236	76.2
商事部門	965,647	108.3	558,103	154.6
合計	5,088,940	101.9	1,992,581	118.5

(注) 上記の金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	3,557,336	112.3
装置部門	618,700	56.2
商事部門	775,442	98.5
合計	4,951,479	97.9

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	当第3四半期連結累計期間		
	販売高(千円)	割合(%)	前年同四半期比(%)
キヤノン株式会社	1,961,276	39.6	132.0

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(7) 主要な設備

主要な設備の状況

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,500,000	5,500,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	5,500,000	5,500,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年12月31日		5,500,000		156,100		146,100

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 51,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,447,100	54,471	
単元未満株式	普通株式 1,500		
発行済株式総数	5,500,000		
総株主の議決権		54,471	

(注) 1. 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式46株が含まれております。

【自己株式等】

2020年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) エヌアイシ・オートテック 株式会社	富山県富山市流杉 2 5 5 番地	51,400		51,400	0.93
計		51,400		51,400	0.93

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2020年10月1日から2020年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	671,945	1,266,091
受取手形及び売掛金	1,022,814	1 825,293
電子記録債権	1,152,399	1 1,394,412
商品及び製品	220,266	274,715
仕掛品	580,097	376,712
原材料及び貯蔵品	462,375	445,175
その他	206,159	25,913
流動資産合計	4,316,058	4,608,314
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,070,892	3,078,665
減価償却累計額	1,346,654	1,424,836
建物及び構築物(純額)	1,724,237	1,653,828
土地	733,647	733,647
その他	985,494	1,150,622
減価償却累計額	653,652	701,735
その他(純額)	331,842	448,887
有形固定資産合計	2,789,727	2,836,363
無形固定資産		
その他	44,659	39,372
無形固定資産合計	44,659	39,372
投資その他の資産		
その他	280,849	334,012
投資その他の資産合計	280,849	334,012
固定資産合計	3,115,236	3,209,748
資産合計	7,431,294	7,818,063

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	458,878	1 408,615
電子記録債務	782,946	1 910,956
未払法人税等		39,216
1年内返済予定の長期借入金	131,000	131,000
賞与引当金	63,446	36,906
製品保証引当金	1,745	2,224
その他	143,664	305,103
流動負債合計	1,581,681	1,834,023
固定負債		
長期借入金	934,000	1,068,500
退職給付に係る負債	211,836	219,646
その他	60,293	112,202
固定負債合計	1,206,130	1,400,348
負債合計	2,787,812	3,234,371
純資産の部		
株主資本		
資本金	156,100	156,100
資本剰余金	145,636	145,636
利益剰余金	4,358,330	4,248,873
自己株式	34,772	34,791
株主資本合計	4,625,295	4,515,818
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,788	50,408
為替換算調整勘定	13,292	17,387
その他の包括利益累計額合計	18,081	67,795
非支配株主持分	104	77
純資産合計	4,643,482	4,583,691
負債純資産合計	7,431,294	7,818,063

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	5,056,657	4,951,479
売上原価	3,979,670	3,893,558
売上総利益	1,076,986	1,057,921
販売費及び一般管理費	958,536	885,309
営業利益	118,449	172,611
営業外収益		
受取配当金	5,077	1,280
仕入割引	3,450	3,238
為替差益	3,673	
その他	2,004	2,754
営業外収益合計	14,205	7,273
営業外費用		
支払利息	6,212	5,981
投資有価証券評価損	4,945	
その他	4,145	646
営業外費用合計	15,303	6,628
経常利益	117,351	173,256
税金等調整前四半期純利益	117,351	173,256
法人税、住民税及び事業税	27,960	65,576
法人税等調整額	21,224	774
法人税等合計	49,184	64,802
四半期純利益	68,166	108,454
非支配株主に帰属する四半期純損失()	57	30
親会社株主に帰属する四半期純利益	68,223	108,485

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	68,166	108,454
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,643	45,619
為替換算調整勘定	1,091	4,097
その他の包括利益合計	14,551	49,716
四半期包括利益	82,718	158,171
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	82,777	158,199
非支配株主に係る四半期包括利益	58	27

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	117,351	173,256
減価償却費	135,486	160,069
貸倒引当金の増減額(は減少)	115	
賞与引当金の増減額(は減少)	50,639	26,540
製品保証引当金の増減額(は減少)	1,758	479
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	3,658	7,809
受取利息及び受取配当金	5,093	1,287
支払利息及び手形売却損	6,212	5,981
投資有価証券評価損益(は益)	4,945	
売上債権の増減額(は増加)	1,258,895	44,057
たな卸資産の増減額(は増加)	37,448	168,129
仕入債務の増減額(は減少)	292,598	77,594
未払消費税等の増減額(は減少)	207,089	207,120
為替差損益(は益)	3,974	481
その他	149,057	58,744
小計	853,670	787,781
利息及び配当金の受取額	4,827	1,287
利息の支払額	6,212	5,981
法人税等の支払額	240,285	31,605
法人税等の還付額		66,149
営業活動によるキャッシュ・フロー	612,001	817,631
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	460,172	102,864
無形固定資産の取得による支出	3,935	4,924
投資有価証券の取得による支出	3,600	3,600
投資有価証券の売却による収入	5,918	
その他	389	1,522
投資活動によるキャッシュ・フロー	462,178	112,911
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	550,000	200,000
長期借入金の返済による支出	65,500	65,500
自己株式の取得による支出	36	19
配当金の支払額	211,992	217,172
その他	23,330	28,422
財務活動によるキャッシュ・フロー	249,140	111,114
現金及び現金同等物に係る換算差額	58	539
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	398,903	594,146
現金及び現金同等物の期首残高	617,831	671,945
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,016,734	1 1,266,091

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大により、当第3四半期連結累計期間において、当社グループでは一時的な需要低下があるものの、感染拡大の収束、経済活動の再開に伴い当連結会計年度末にかけて受注状況が回復していくと仮定しており、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損等の会計上の見積りについては、当該仮定を反映しております。

なお、新型コロナウイルスによる経済活動への影響は不確実性が高いため、先述の仮定に状況変化が生じた場合は当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権・債務の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期の手形及び電子記録債権・債務が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
受取手形		6,413千円
電子記録債権		47,801 "
支払手形		6,343 "
電子記録債務		120,082 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
現金及び預金	1,016,734千円	1,266,091千円
預入期間が3か月を超える定期預金		
現金及び現金同等物	1,016,734千円	1,266,091千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月10日 取締役会	普通株式	108,972	20	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金
2019年11月1日 取締役会	普通株式	103,522	19	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月8日 取締役会	普通株式	108,971	20	2020年3月31日	2020年6月29日	利益剰余金
2020年11月6日 取締役会	普通株式	108,971	20	2020年9月30日	2020年12月1日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	アルファ フレーム部門	装置部門	商事部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,168,722	1,100,595	787,339	5,056,657		5,056,657
セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	3,168,722	1,100,595	787,339	5,056,657		5,056,657
セグメント利益	51,803	40,535	26,111	118,449		118,449

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と対応しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	アルファ フレーム部門	装置部門	商事部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,557,336	618,700	775,442	4,951,479		4,951,479
セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	3,557,336	618,700	775,442	4,951,479		4,951,479
セグメント利益又は損失()	149,429	23,332	46,515	172,611		172,611

(注) セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と対応しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり四半期純利益	12円52銭	19円91銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	68,223	108,485
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	68,223	108,485
普通株式の期中平均株式数(株)	5,448,586	5,448,563

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第50期(2020年4月1日から2021年3月31日まで)中間配当について、2020年11月6日開催の取締役会において、2020年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 108百万円
1株当たりの金額 20円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日 2020年12月1日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年2月5日

エヌアイシ・オートテック株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

北陸事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	石尾	雅樹	印
--------------------	-------	----	----	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大枝	和之	印
--------------------	-------	----	----	---

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエヌアイシ・オートテック株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エヌアイシ・オートテック株式会社及び連結子会社の2020年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。